

# 歴史地区寺内町における住民のまちづくり貢献意識特性 ～八尾市久宝寺地区を対象として～

橿原市役所 平田 和寛  
東大阪調査設計研究所 山村 和也  
大阪工業大学工学部 岩崎 義一  
大阪工業大学工学部 山口 行一

## 1. はじめに

### (1) 目的

近年、地域資源に立脚した地域の活性化や再生が言われている。その中で、国土交通省で観光庁を設置する(平成20年)など、地域観光による活性化が国策としても進められてきている。こうした中で、週末周遊など小規模の都市観光が寺社仏閣など歴史的資源を活用して進められている例が見られる。既往研究では、岩波<sup>1)</sup>の寺内町の変容過程を段階的に捉え都市形成における中世寺内町と近世都市との関連性および影響を考察した研究や、亀井<sup>2)</sup>の住民活動の時間的変容を追う中で「住民意識」「景観」の2点から機能評価を行い、歴史的環境保全における住民活動の位置付けを行った研究などがある。しかし、これらは住民のまちづくり貢献意識についての分析はみられない。本研究では、寺内町として都市が形成され、これが今日においても引き継がれている市街地のうち、久宝寺地区の住民を対象に観光など地域活性化に向けたまちづくりの意識構造を明らかにすることを目的とする。

### (2) 方法

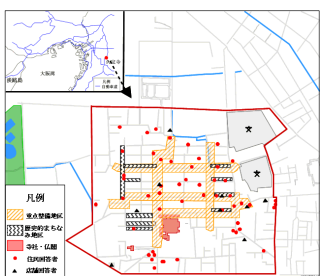


図1 久宝寺地区

久宝寺地区の住民、商店及びこの地区への来訪者に対して聞き取りによるアンケート調査を実施した。(実施期間日：2013.10～11月 回答件数：住民 71件、店舗 13件、来訪者 21件)

## 2. 久宝寺寺内町の歴史

寺内町とは、はじめ寺院を中心に形成された宗教都市と考えられ、戦国の動乱期の中で急速に発展し、土居・濠や木戸門など防御的機能を備えて環濠城塞化され、宗教政策のもとで自治的確立をめざして各地に建設されたものである。

久宝寺周辺では元々若江城が存在していた。そこでは長年畠山の家督争いが続いていたが、最終的に織田信長の支配下に入り、石山本願寺攻めの拠点となった。久宝寺寺内町は、古くから一向宗の慈願寺があり、蓮如はそ

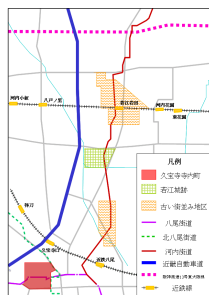


図2 久宝寺周辺

の慈願寺で布教活動していたが、ここに改めて西証寺を創建し、中・南河内の拠点寺院とした。そしてほぼ同時期ごろ、近郊の八尾萱振にも恵光寺が建立され、蓮如の河内布教以来、これらの寺院を中心に一向宗は当地方にも広まった。そして、若江城が破却された

あとは大坂冬の陣・夏の陣の戦場の一つとなった。

## 3. 久宝寺地区住民のまちへの意識構造特性

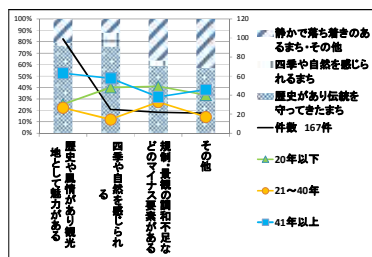


図3 まちの住民印象別居住年数別希望印象の割合

住民の住むまちへの印象(以下、住民印象)別に来訪者に抱かせたいまちの印象(以下、希望印象)の割合を調べたところ、6割近く

の人が「歴史や風情のある観光地として魅力があるまち」と思っており、そう答えた人たちの中でも来訪者から「歴史ある伝統を守ってきたまち」と思ってもらいたい人が7割以上いた。また、住民印象が「歴史や風情があり観光地として魅力があるまち」とする人は居住年数が41年以上の割合が特に多い。

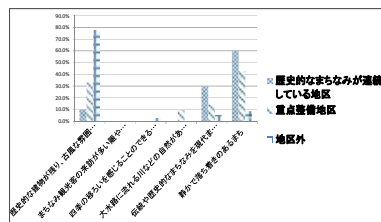


図4 地区別希望印象

「規制があり生活上不便があるなどマイナス要素があるまち」と答えた人は、20年以下の居住年数の人が多く、「静かで落ち着いたまち」という希望

印象の割合が多い。要約すると住民は久宝寺の歴史あるまちなみに愛着を持っているものの、住み始めてしばらくは不便に感じ、徐々に愛着を持つ傾向がある。

次に歴史的なまちなみが連続している区域(以下、歴

史的まちなみ地区)、八尾市指定の重点整備地区、これらの地区の入らない地区(以下、地区外)別に希望印象を聞いた。その結果、地区外は「歴史的な建物が残り、古風な雰囲気を感じることでできるまち」という項目が特に高い。歴史的まちなみ地区は「静かで落ち着いたあるまち」が重点整備地区や地区外に比べ割合が高かった。

要約すると地区外の住民は歴史を感じるまちという希望印象をもっており、歴史的まちなみ地区の住民は賑いを感じるまちではなく静かで落ち着いたあるまちという希望印象を持っている。

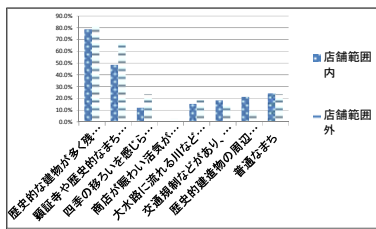


図5 住民のまちへの印象

「歴史的な建物が残り、風情がある」という項目では、どちらも割合が一番高く、差はそれほどなかった。

「顕証寺や歴史的なまちなみがあり、まちなみ観光地として魅力がある」、「四季の移ろいを感じられる」、「大水路に流れる川などの自然がある」の3つの項目は店舗外縁住民の割合の方が高くなっている。

「交通規制などがあり、生活上不便なことが多い」、「歴史的建造物の周辺に綺麗な軒家などが建っている調和がとれていない」、「普通なまち」の3つの項目では店舗近隣住民の割合の方が高くなっている。

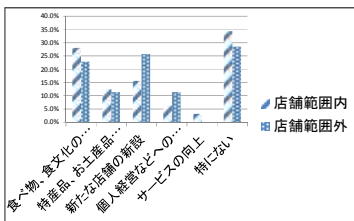


図6 店舗範囲別店舗の必要条件

店舗外縁住民は「新たな店舗の新設」、「個人経営などへの支援」の割合が店舗近隣住民に比べ高い。

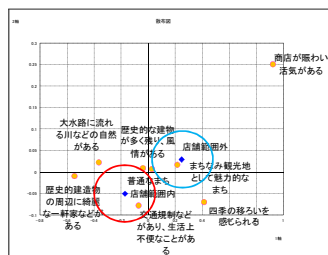


図7 店舗範囲別まちへの印象

次に店舗の周辺の住民(半径約50m以内。以下、店舗近隣住民)と離れている住民(以下、店舗外縁住民)で比較してみても

「歴史的な建物が多く残り、風

情がある」という項目では、どちらも割合が一番高く、

また、賑やかなまちにしていくために何が必要かを調べた。

店舗近隣住民は「食べ物、食文化の魅力づくり」、「特産品、お土産品の開発」の割合が店舗外縁住民に比べ高い。

次に店舗近隣住民と店舗外縁住民に分け、住民印象でコレスポネンダ分析を行った。

店舗近隣住民は「交通規制などがあり、生活上不便なことが多い」項目と関連性が高い。

い。店舗外縁住民は「顕証寺や歴史的なまちなみがあり、まちなみ観光として魅力がある」項目と関連性が高い。

次に店舗近隣住民と店舗外縁住民に分け、店舗の必要条件でコレスポネンダ分析を行った。

店舗近隣住民は「食べ物、食文化の魅力づくり」という項目と関連性が高く、店舗外縁住民は「新たな店舗の新設」、「個人経営などへの支援」の項目と関連性が高い。

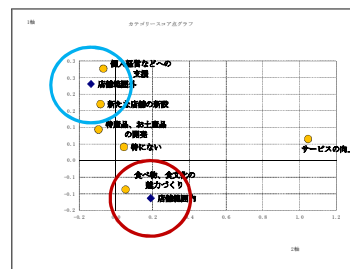


図8 店舗範囲別店舗の必要条件

店舗外縁住民は観光地として魅力的なまちという住民印象を持っている。また、今後の店舗については店舗の新設・充実が必要としている。

#### 4. 住民のまちへの貢献意識構造特性

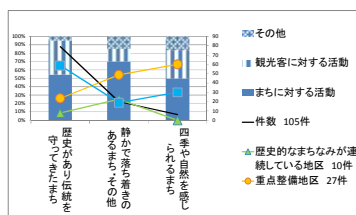


図9 地区別希望印象別可能な貢献活動

次に3つに分けた地区別に希望印象別可能な貢献活動の割合を調べたところ、全体では「歴史ある伝統を守ってきたまち」という希望印象の割合が多い。そうした中で「静かで落ち着いたあるまち」という希望印象は「まちに対する活動」ができるという割合が高いが、「観光客に対する活動」には消極的であった。また、地区別で見ると歴史的まちなみ地区と重点整備地区が「静かで落ち着いたあるまち」の部分で高くなっている。

要約すると住民の多くは「歴史ある伝統を守ってきたまち」という希望印象を持っている。しかし、重点整備地区に住んでいる人は「静かで落ち着いたあるまち」という希望印象を持っており、観光客に対する活動には消極的である。

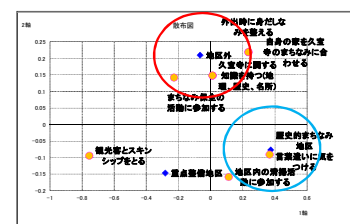


図10 地区別貢献内容

これらを要約すると店舗近隣住民は店舗外縁住民に比べ、生活上不便なことがあるまちという住民印象を持っている。また、今後の店舗については食の魅力向

上が必要としている。店舗外縁住民は観光地として魅力的なまちという住民印象を持っている。また、今後の店舗については店舗の新設・充実が必要としている。

次に3つに分けた地区別に希望印象別可能な貢献活動の割合を調べたところ、全体では「歴史ある伝統を守ってきたまち」という希望

印象の割合が多い。そうした中で「静かで落ち着いたあるまち」という希望印象は「まちに対する活動」ができるという割合が高いが、「観光客に対する活動」には消極的であった。また、地区別で見ると歴史的まちなみ地区と重点整備地区が「静かで落ち着いたあるまち」の部分で高くなっている。

要約すると住民の多くは「歴史ある伝統を守ってきたまち」という希望印象を持っている。しかし、重点整備地区に住んでいる人は「静かで落ち着いたあるまち」という希望印象を持っており、観光客に対する活動には消極的である。

次に3つに分けた地区と貢献内容を使ってコレスポネンダ分析を行った。

歴史的まちなみ地区は「言葉遣いに気をつける」項目と関連性が強く、地区外は「まち

なみ保全の活動に参加する」、「自身の家を久宝寺のまちなみに合わせる」、「外出時に身だしなみを整える」項目と関連性が強い傾向が出た。

要約すると歴史的まちなみ地区の住民はおもてなしの貢献と関連性が高く、地区外は景観などハード面に対しての貢献と関連性が高いとしている。

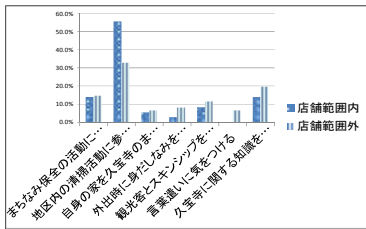


図 11 店舗範囲別貢献内容

次に店舗範囲別で貢献内容を比較してみた。

唯一、「地区内の清掃活動に参加する」という項目だけ店舗近隣住民の割合の方が高くなっている。それ以外の項目では店舗外

縁住民の割合の方が高い。

要約すると店舗近隣住民は清掃活動、店舗外縁住民はおもてなしに関わることに貢献できる意識が高い。

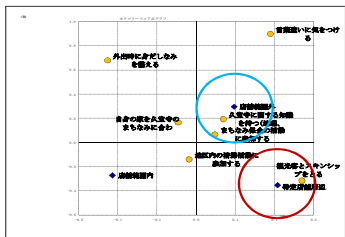


図 12 店舗範囲別貢献内容

次に店舗近隣住民と店舗外縁住民、アンケートを取った店舗周辺にいる住民（以下、特定店舗近隣住民）に分け、貢献内容でコレスポネンズ分析を行った。

店舗外縁住民は「久宝寺に関する知識を持つ」、「まちなみ保全の活動に参加する」の項目と関連性が高い。特定店舗近隣住民は「観光客とのスキニップをとる」の項目と関連性が高い傾向が出た。

要約すると特定店舗近隣住民は観光客との交流を図るなどの文化を伝える活動と関連性が高く、店舗外縁住民は文化に対しての活動もあるが景観などのハードな面に対しての貢献活動と関連性が高いことがわかった。

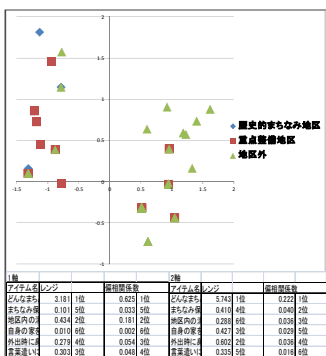


図 13 カテゴリースコア

深く関わっていることが分かる。

とくにサンプルスコアプロット図をみると重点整備地区と地区外は第1軸で明確に分かれており、地区の歴史と自然が大きく関係している。よって、歴史的まちなみ

地区、重点整備地区は地区の自然条件の涵養を通して、歴史市街地の保全に注力していくことが重要であり、かつその可能性は高いと考えられる。

### 5. 伏見との比較にみる意識構造特性

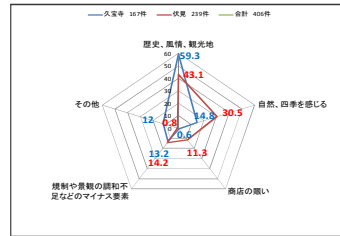


図 14 久宝寺と伏見のまちなみ住民印象の比較

次に住民印象を伏見と比較してみた。伏見と比べると久宝寺の方が歴史や風情有あり、観光地として魅力があると感じている。しかし、自然や四季を感じるところや商店の賑いは伏見と差ができ、久宝寺が低い傾向が出た。

た。

要約すると久宝寺は歴史や風情有あり、観光地として魅力のあるまちなみという印象が住民の中で強いが伏

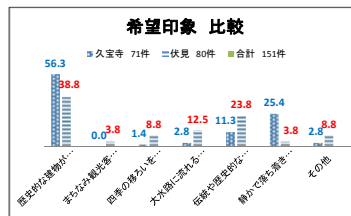


図 15 まちへの希望印象の比較

見に比べ自然や商店の賑いが欠けている印象が住民にある。

次に希望印象を比較したところ、久宝寺は「歴史的な建物が残り古風な雰囲気のあるまちなみ」という情緒という面を重視していること

に対し、伏見はそれに加え「伝統や歴史的なまちなみを現代まで守ってきたまちなみ」という文化の面も重視している。

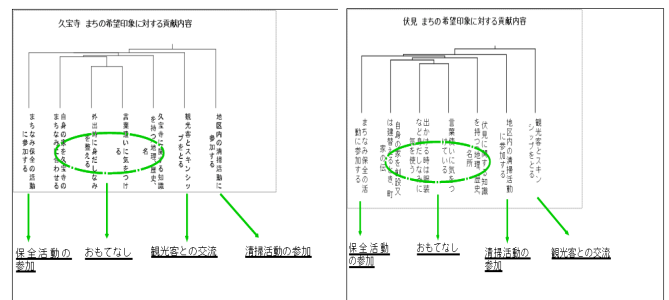


図 16 クラスタ分析

次に希望印象に対する貢献の回答から類似性を見るべく、伏見と共にクラスタ分析を行った。これを見ると、どちらも「自身の家をまちなみに合わせる」、「外出時に身だしなみを整える」、「言葉遣いに気をつける」、「知識を持つ(地理、歴史、名所)」に類似性が見られた。この4つを「おもてなし」というグループとした。

クラスタ分析を行った結果から4つのグループを作り、まちへの希望印象に対する貢献内容を伏見と比較した。

その結果、久宝寺は「清掃活動の参加」の割合が高く、



伏見は「おもてなし」の割合が高い傾向が出た。

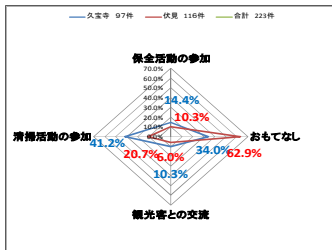


図 17 久宝寺と伏見のまちなみに対する希望印象に対する貢献比較

要約すると伏見はおもてなしという観光客に対する活動に貢献できるという傾向があるが、久宝寺は直接観光客に対する活動に貢献するわけではなく、清掃活動に参加するというまちに対する活動に貢献できるという傾向がある。

## 6. 久宝寺地区商店の意識構造特性

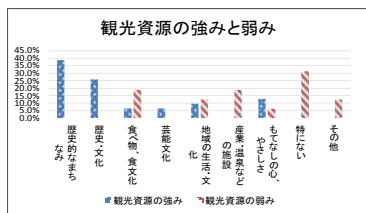


図 18 観光資源の強みと弱み

次に久宝寺内に存在する商店に久宝寺にある観光資源として強みがあると思うものと弱みであると思うものをそれぞれ答えて貰った。その結果、歴史的なまちなみが4割近くあり、観光資源として特に強みがあると思っている。それに次いで歴史・文化が高い結果となった。しかし、食べ物・食文化や施設が観光資源の弱みとしている。

要約すると商店は久宝寺の歴史的なまちなみや文化が観光資源として強みがあると感じているが、食べ物や施設については資源としては弱いと認識している。

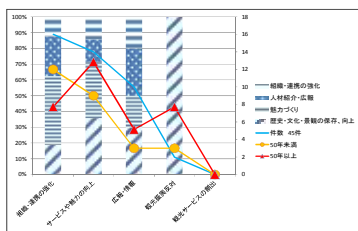


図 19 必要条件別営業年数別可能な貢献

が多かった。また、どんな貢献ができるかの中では「魅力づくり」や「歴史・文化資源の保存」の回答が多かった。しかし、「観光サービスの創出」に回答をした店舗はなかった。また、組織・連携の強化の項目にのみ営業年数が50年未満の店舗の割合が50年以上の商店に比べ高くなっている。

要約すると観光を進めていく上で特に営業年数が50年未満の商店が組織・連携の強化が必要と感じており、魅力づくりに貢献できると答えている。

## 7. 総括

久宝寺の住民は、不便に感じることもあるのだが、

久宝寺の歴史あるまちなみに愛着を持っている。また、店舗周辺住民は生活上不慣れな印象を持っているが、店舗から離れている住民は観光地として魅力があると感じている。今後、久宝寺の店舗に関して必要なことについては「食」と「新設」の大きく分けて二つの回答が出た。店舗周辺の住民は「食」、店舗から離れている住民は「店舗の新設」に関することが必要と感じている。これは久宝寺内に店舗が少ないため、店舗から離れている住民はこのような傾向になったと考えた。

まちへの印象の希望については全体的に歴史ある伝統を守ってきたまちという希望印象がある。「歴史的まちなみ地区」、「重点整備地区」、「地区外」に分けて調べた場合、歴史的まちなみ地区や重点整備地区の住民はまちに対して静かで落ち着いた印象を希望している。それらの地区に該当しない地区の住民は歴史を感じるまちという印象を希望している。貢献内容では、歴史的まちなみ地区の住民はソフト面の貢献、地区外の住民はハード面の貢献の傾向がある。

地区外の住民は歴史的まちなみ地区や重点整備地区の住民のように、日常の一部として歴史的な建造物などを見てきているわけではないため、歴史的なまちなみが貴重に感じる。そのため、地区外の住民はハード面の貢献が多いと考えた。

商店は観光資源として歴史的なまちなみを強み、食を弱みとして挙げている。また、今後必要とされるのは組織などの連携の強化としている。

以上より久宝寺の住民は歴史ある伝統を守ってきたまちという印象を希望しているが、住んでいる場所によって貢献内容や今後必要なことについて違いが出たことが分かった。

久宝寺の住民の見ている方向は一緒であるが、住んでいる場所によって多少考えていることが違う。そのため、区域ごとの役割分担が必要と考える。例えば、店舗周辺の住民は店舗と協力し、「食」に関する魅力づくり、歴史的まちなみ地区にいる住民は文化を伝えるなどの貢献、地区外にいる住民はまちなみ保全や魅力の向上などの役割分担が、今後歴史的なまちなみを守りながらまちづくりをしていく上で重要となってくるだろう。

## 参考文献

- 1) 岩波由佳：近世期における寺内町の町構造の変容について - 和泉国貝塚寺内町を事例として - 日本建築学会計画系論文集 第546号
- 2) 亀井由紀子：歴史的環境保全地区における住民活動の機能評価に関する研究 - 橿原市今井町重要伝統的建造物群保存地区を事例として - 日本建築学会計画系論文集 第76巻 第670号
- 3) 寺内町の基本計画に関する研究 - 久宝寺寺内と八尾寺内を中心として -